

日本の野球文化の研究

A study of Japanese baseball culture

1K04A065-1

鎌田 朋樹

指導教員

主査 加藤清忠先生

副査 関一誠先生

はじめに

近年、日本の野球は盛り上がりを見せている。昨年はWBCでの優勝をはじめ、甲子園での駒大対早実の引き分け再試合を含む決勝戦には日本中が注目しただろう。そしてその早実の斉藤祐樹が今年早稲田大学に進学し、ニューヒーローの誕生に六大学野球も例年にない盛り上がりを見せている。そんないまや日本の国民的スポーツともいえる野球は、どのようにしてここまで発展してきたのだろうか。そして日本の野球の特徴とは何なのかを研究し、また今後の日本の野球の課題は何なのかを追究していきたい。

第一章 日本の野球の歴史

第一章では野球が日本に伝えられてから、現代に至るまでどのように国民に受け入れられ、広まっていたのかをみていく。そこには常にアメリカという国の存在があった。そして日本の野球の特徴もそうしたアメリカに対する日本人の感情から生まれてきた。また日本のプロ野球の歴史に大きくかかわってきた、ジャイアンツという球団の存在意義、特徴を踏まえながら日本の野球の歴史をみていく。

第二章 日本の野球の特徴

二章では武士道とは日本の社会全体に広がる基本理念である。日本人らしさともいえるだろう。日本の野球もこれを反映した特徴をさまざまもっている。アメリカのベースボールとは違う、日本野球独特の文化がそこにはある。「千本ノック」などに代表される精神鍛錬の意味合いが強い、厳しい練習。個性よりもチームの「和」を重んじるころ、犠牲バントを多用し、チームの勝利を優先させる野球が日本の「武士道野球」野球の基本である。

第三章 外国人から見る日本の野球

三章では日本へやってきた外国人選手から見た日本の野球の特徴をみていく。アメリカのベースボールとはまったく異なる日本の「野球」というものに彼らは戸惑いを隠せない。日本人もまた、自分たちとは違う考えをもつ彼らを受け入れることができない。日本人の外国人への偏見は、王貞治のもつ、シーズン

最多本塁打記録の更新をめぐる浮き彫りになってくる。そんな両者の間にある壁をどうしたら解決できるだろう

第四章 海を渡る日本人

四章では三章とは反対にアメリカのメジャーリーグへ行った日本人選手たちが日本の野球文化にどんな影響をもたらしたかをみていく。日本とアメリカの両国にとって特に大きな意義をもったのは野茂秀雄とイチローだろう。日本とアメリカの野球の大きな架け橋となった、この2人に焦点をあて、彼らの活躍とそれによって変化した日本とアメリカをみていく。

第五章 日本人指導者と外国人指導者の違い

五章では日米間の指導者の違いをみながら、日本人指導者の問題点をあげていく。近年増えるプロ野球の外国人監督の起用は、日本に有能な指導者がいない証である。日本野球のこれからの発展を考えれば、それは今最も求められている課題である。日本の指導者制度、指導方法、あらゆる面で検討が必要である。外国人監督に習うよい指導者とは何なのか。

結語

日本の野球とアメリカのベースボール。両者にはそれぞれいい点がみられる。日本の伝統である「武士道野球」を古いと非難する声があるが、果たして古いで片付けてしまって本当にいいのだろうか。「武士道野球」にはただ単に有能なスポーツ選手を育てるだけでなく、すばらしい人間性を育てるよい側面をもっている。そしてそれがまた日本人の心、アイデンティティーであるなら、その人間形成を無視した指導の仕方は1流とはいえないだろう。

そして日本の野球は確かに盛り上がりを見せてきている。しかしスポーツの多様化、グローバル化がすすむ中で、野球が世界的に発展していくために、さらに進歩を重ねていかなければいけないだろう。よき指導者の育成、日米間の野球文化交流、野球の世界普及、世界一の称号を手にした野球大国に求められる課題は山積みだ。しかし日本の国民的スポーツである野球の未来は明るい。